



「人の生き様」を未来へ繋ぐ

総務省消防庁国民保護・防災部
防災課災害対策官
併任 国民保護運用室課長補佐

神長 賢人 KAMINAGA Kento

平成 26年 4月 総務省採用
同 自治税務局市町村税課
平成 26年 8月 兵庫県企画県民部ビジョン課
平成 27年 4月 同 企画県民部企画財政局財政課
平成 28年 4月 総務省自治行政局選挙部政治資金課
平成 29年 4月 同 大田官房総務課
平成 30年 4月 同 自治財政局公営企業課
平成 30年 7月 同 自治財政局公営企業課制度係長
令和 元年 8月 下関市財政部長
令和 4年 7月 現職

人生における自身の「軸」

「国を思い働く」。皆さんはこれから、この言葉をどのように体現されていくでしょうか。茨城県北部の小さな町で生まれ育った私が進路選択に当たり抱いた思いは、「この国のどこに生まれ育っても、誰もが自分の故郷や出自を大切に思える社会を作り、未来へ引き継いでいきたい」というものでした。

これまで、省内の仕事では水道や病院など公的インフラの持続可能性の検討などに取り組む一方、兵庫県と下関市へ赴任し、日本全体と地域社会の双方に向き合う中で、学生時代の思いが自分の軸となっていることを実感しています。財政の舵取り役として下関市政に責任を負う立場となった際にも、常に「地域の幸せに結び付くか」「将来世代に対し堂々と説明ができるか」を行動原理・判断基準としてきました。

国家行政の最前線で

現職の業務においては、頻発する自然災害への対策や、緊迫化する国際情勢の中での国民保護行政に携わり、5年ぶりとなる「アラート」による情報伝達や、安全保障3文書の改定に直面するなど、日本

の社会・国土を守り引き継ぐことの難しさを前に奮闘する毎日を送っています。

新たなトピックが次々に発生する刺激にあふれた日々ですが、様々な場所で多様な志を抱く方と出会い、国と地域の未来に対する想いを語り合った経験が、山積する課題に対峙する自分の背中を鼓舞してくれています。

社会に生きる一員として、地に足をつけて

現在31歳の自分は、家庭に帰れば2人の娘の父として子育てに励んでいます。「国を幸せにしたければ、自分の最も近くにいる人を幸せにすることから」。入省間もない頃、尊敬する先輩からこんな言葉を教えていただきました。

どのような社会が前向きな人生の選択を後押ししてくれるか？国の仕組みに対して責任を持つ国家公務員だからこそ、生活を営む者の実感を育み、仕事に還元することを大切にしたいと考えています。

民主主義の根幹を守るために

多岐にわたる業務を擁する総務省を貫くミッションは、「あらゆる人の幸福のために日本の民主主義社会を支える」チームであることだと考えています。

課題先進国と言われる日本にあって、地方のあり方などを通じて一人ひとりの生き様を支えていく、我々はそんな大きな目標に丸くなって取り組んでいます。9年間を振り返っても、地域の未来を本気で考える仲間とともに歩んでいける職業を選んだと胸を張って言い切ることができます。

まだ見ぬ人・地域との出会い、日本全体の未来を描く使命。総務省で待っている将来に、皆さんの持つ志と無限の可能性が合致するか、扉を開けて確かめてみませんか。



地方での生活：関門海峡にて

より良い制度を考え、実現する

私は、現在、選挙課という部署で選挙制度に関する法令の作成業務を担当しています。これまで、衆議院小選挙区における一票の較差是正のための区割り改定や、目が不自由な方のための点字投票の改善などに携わってきました。

法令の作成業務では、当事者の方を含め色々な人の意見を聞き、この制度改革は本当に有権者のためになっているのか、より良くできないかということを徹底的に考えながら、自分の書いた一文字一文字が法令になっていく緊張感とともに仕事をします。普段は目の前の仕事に必死で向き合っていくばかりですが、自分の携わった制度改革が新聞などで大きく取り上げられているのを見ると、改めて重要な仕事をしているのだとやりがいを感じます。また、一有権者として投票に行き、自分が携わった制度改革が実際に運用されているのを見ると、住民生活に直結する仕事をしていることを実感します。

選挙制度は、一見、成熟した制度にも思われますが、現行制度では投票しにくい方がいることや、投票率の低下などの課題も指摘されており、現行の選挙制度が民主主義を支える役割をしっかりと果た

すことができているのか問い続けていく必要があります。今後の選挙制度のあり方について考え、また、それを自分の手で実現していくことができるのは、総務省でしかできない仕事だと思っています。

「胆力」と「しなやかさ」を兼ね備えた人間に

私は、業務内容の魅力もさりながら、総務省で働く先輩方の「胆力」と「しなやかさ」を兼ね備えた人間性に惹かれ、総務省の門を叩きました。国と地方自治体を行き来するキャリアパスの中で重要な仕事に携わるため、仕事を背負い、責任を持ってやりきる信念・強さが求められる一方、特に地方赴任では誰も知らない職場に一人で飛び込んでいくこととなりますので、色々な人の意見や価値観を取り入れ、日々自分をアップデートしていく柔軟性も必要です。私は、この仕事を通して、行政官としても、人間としても、これからまだまだ成長していきたいと思っています。

皆さんも、総務省で、多様な経験を通して自らを成長させる機会を得ながら、より良い住民生活を実現することができる仕事に携わってみませんか。



お世話になった福島県庁の皆さんが開催してくださったお別れ会にて（首にはいただいた会津木綿を）



北海道赴任中の同期に会いに同期旅行！

自ら成長し、より良い 住民生活を実現する

総務省自治行政局選挙部
選挙課主査

辻下 美智子 TSUJISHITA Michiko

平成 30年 4月 総務省採用
同 自治行政局選挙部選挙課
平成 30年 8月 福島県総務部市町村総室市町村行政課
令和 元年 7月 内閣府本府地方分権改革推進室室員
令和 3年 4月 総務省自治行政局選挙部選挙課
令和 4年 7月 現職

